

新入生歓迎会を成功させよう

○目標となる資質・能力

思いやり・他者理解、思いや考えの表現力、仲間づくり・絆づくりに資する力、自尊感情・自己効力感

○指導のねらい

新入生歓迎会の立案を通して、自分の意見を人に伝えること、相手の立場に立って考えることを体験し、リーダーとしての意識を持つ

○準備するもの

パソコン、ワークシート×生徒数

○教育課程、実施時期

知的障害（重度重複の生徒を含む）高等部3年生生活単元学習、4月上旬～中旬

○留意点など

本展開例は特別活動プラン「集団活動を柱とした活動プラン」の授業1である。授業2及び授業3の展開例については、参考欄を参照すること

展開例

	学習活動	指導上の留意点
この展開例は50分×2コマ続きで行うことを想定しています		
導入 15分	1 高等部3年生（最高学年）になった思いや決意を発表する 2 本時の学習を知る	・リーダーになることへの思いを高める
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 新入生歓迎会を成功させよう </div>		
展開 75分	3 新入生歓迎会のプログラムを考える（予想される案） 「ゲーム」「歌」「会食」「プレゼント」「歓迎のことば」など 4 班分け（役割分担）をする 5 各班に分かれて、活動（プログラム）内容について相談する <ul style="list-style-type: none"> ・活動の詳細 ・準備物 ・役割分担 	・重度の生徒にもできる内容を考慮するように促す ・積極的な生徒だけでなく、全員の意見が出せるようにする ・主体性と適性を考慮する ・重度の生徒にもできる内容を考慮するように促す ・適切な時間配分をするように考えさせる
まとめ 10分	6 決定した活動内容を発表する	・人に伝わるように発表させる ・内容の確認

参考

○高等部段階の特徴について

高等部段階では、卒業後の社会生活への移行期ということで、実際の社会生活「働くこと」を強く意識して進めることになる。自己肯定感、自己有用感を高める、失敗や困難を乗り越える、そして、やりがいを感じられるように指導・支援していく必要がある。就労後、「職場の人とうまくコミュニケーションがとれない」、「仕事がしんどくて耐えられない」という理由から仕事を辞めてしまうケースが少なくない。学校生活の中で、「自分はこれが得意なんだ」、「自分にもできるんだ」という自信を確実なものにしていくこと、「自分は人から必要とされているんだ」と実感することと併せて、「失敗したときに、どのように乗り越えていくか」ということも大切な力であると考えられる。

○生活単元学習について

生活単元学習は、児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際の・総合的に学習するものである。

○本活動について

本活動は、①後輩のことを考えて内容を計画する「思いやり・他者理解」、②計画を進め、実行するために自分の「思いや考えを表現する力」、③新しい後輩や学部内の友達との絆を深める「仲間づくり・絆づくりに資する力」、そして④自分にもできるという自信を確実なものにしていく「自尊感情・自己効力感」を育成することを目標としている。「新入生歓迎会」を成功させるためには、リーダーである3年生が、個々の生徒のことを考え、みんなが楽しめる内容を計画しなければならない。準備段階では、ゲーム進行のために、相手に伝える話し方等について学習をしたり、会食のための調理の実施、プレゼントの作成をしたりするなど、様々な体験をしながら今後の社会生活に必要な力を身に付けていくことになる。

○特別活動プラン「集団活動を柱とした活動プラン」における展開について

本授業の活動の後、「事前学習」については、各班で活動する中で、リーダーとして活躍することを通して主体性を高めるとともに、班内の生徒と協調することを学習する。また、「事後学習」では新入生歓迎会を終えた後、生徒自身が活動についての感想や反省、自分の役割の振り返りなどの評価を行う。この活動の際、時系列で活動を振り返ったり、感じたことを自分の言葉でまとめ、伝えたりするようにする。

教師は、生徒の卒業後の社会生活を見通し、生徒自身が思いや考えを相手に伝えることの重要性を捉え、様々な活動の中で人前で話したり発表したりする場を設定する必要がある。

資料

- ・特別支援学校学習指導要領解説総則等編（高等部）
- ・独立行政法人特別支援教育総合研究所「特別支援教育の基礎・基本～一人一人のニーズに応じた教育の推進～」